

<運営推進会議における評価>

【事業所概要】

法人名	芙蓉会	事業所名	みぎわの里
所在地	(〒417-0001) 静岡県富士市今泉2196-1		

【事業所の特徴、特に力を入れている点】

・ご利用者の思いに寄り添い、個々の笑顔を引き出せるように支援していきます。
 ・医療ニーズの高いご利用者を多機関・多職種が情報共有し、最期まで在宅で生活することを支援していきます。

【自己評価の実施概要】

事業所自己評価 実施日	西暦 2017 年 12 月 6 日	従業者等自己評価 実施人数	(11) 人 ※管理者を含む
----------------	--------------------	------------------	------------------

【運営推進会議における評価の実施概要】

実施日	西暦 2018 年 2 月 23 日	出席人数 (合計)	(16) 人 ※自事業所職員を含む
主席者 (内訳)	<input type="checkbox"/> 自事業所職員 (8 人) <input type="checkbox"/> 市町村職員 (____ 人) <input type="checkbox"/> 地域包括支援センター (1 人) <input type="checkbox"/> 地域住民の代表者 (____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者 (____ 人) <input type="checkbox"/> 利用者の家族 (3 人) <input type="checkbox"/> 知見を有する者 (4 人) <input type="checkbox"/> その他 (____ 人)		

■ 前回の改善計画の進捗評価

項目	前回の改善計画	実施した具体的な取組	進捗評価	
<p>I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・マニュアルについては毎年確認し、必要時には随時検討、改善を行う。 ・実施目標は外部評価に沿った内容にする。 ・安否コールの活用は訓練で100%の返信を目指す。 ・送迎時、外出時の連絡方法を検討していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルをその都度見直し、予防対策に努めた。 ・実施目標を外部評価に沿った内容に変更した。 ・安否コールの活用を100%返信に努めた。 ・送迎・外出時の連絡法はマニュアルを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・送迎時・外出時のマニュアルを見直し、予防対策に取り組むことが出来た。 ・安否コールの活用は8割以上達成出来た。(2割は携帯電話変更等) ・実施目標は検討し作成する事が出来た。 	
<p>II. サービス提供等の評価</p>	<p>1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～22)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族を含む24時間アセスメントの情報把握できる方法を検討していく。 ・利用者情報ファイルを定期的に見直し、介護・看護の専門性を活かし、多職種連携してサービス提供していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅でのご家族を含む24時間の暮らし全体の着目は全員は出来なかった。 ・利用者情報ファイルを廃止し、個人ファイルを充実させた。アセスメントを細かく記入し、変更があれば随時更新した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・24時間アセスメントの情報把握は宿泊されている利用者はできているため、「おおよそできている」の評価を受ける。 ・方法を変え、多職種間で連携し情報共有出来た。 ・◎は「おおよそできている」の評価を受ける。
<p>2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 23～25)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅生活が継続できるように、地域医療機関との連携を広め、強化していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護指示書の担当主治医の連携が増えた。 ・ソーシャルワーカー等、顔馴染みの関係になり連携しやすくなった。 ・空き情報等を医療機関等に伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関だけではなく、多機関とも連携が増えた。 	
<p>3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 26～31)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事(防災訓練・夏祭り・文化祭等)、いきいきサロンへの参加を計画する。 ・定期的に民生委員定例会にて、啓発活動をしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議において情報開示している。 ・防災訓練、いきいきサロンに参加した。 ・看取り支援はなかった。人工呼吸器(CPAP)は受け入れた。 ・地域包括ケアシステムとしてのみぎわの里の位置づけを理解し、病院との連携、地域で暮らせるよう支援をした。 ・家族より相談、改善策など提供提案したが、地域への発信は取り組めなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・防災訓練、いきいきサロンに参加出来た。 ・看取り、人工呼吸器、喀痰吸引は受け入れる体制は出来ている。 ・病院と連携し、在宅生活を支援することが出来た。 ・家族より相談、改善策など提供提案出来たが、地域への発信の取り組みは出来なかった。 	
<p>III. 結果評価 (評価項目 32～33)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ご利用者・ご家族の希望するサービスに柔軟に対応していく。 ・看取り支援はマニュアルを活用し、ご本人が苦痛なく、ご家族が安心感が得られるように支援していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・目標(長期・短期)が達成されるように取り組んだ。 ・ご利用者、ご家族からの様々な相談を受け、対応した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画に沿って目標が達成でき、継続出来た。 ・ご利用者、ご家族からの相談を受けることが出来た為、安心を得られ在宅生活を継続する事が出来た。 	

※「前回の改善計画」および「実施した具体的な取組」は事業所が記入し、「進捗評価」は自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■今回の「評価結果」および「改善計画」

項目	評価結果	改善計画	
I. 事業運営の評価 (評価項目 1～10)	<ul style="list-style-type: none"> ・各種マニュアルをその都度見直し、予防対策に努めることができた。 ・実施目標を外部評価に沿った内容に変更し、作成した。 ・安否コールの活用は80%返信することが出来た。 ・送迎・外出時の連絡法はマニュアルを作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・必要時、各種マニュアルを適宜見直し、予防対策を継続していく。 ・実施目標の変更した内容について、実践継続していく。 ・安否コールの活用は訓練で100%の返信を目指す。 	
II. サービス提供等の評価	1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供 (評価項目 11～22)	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅でのご家族を含む24時間の暮らし全体の着目は、宿泊されている利用者は情報共有できた。 ・利用者情報ファイルを廃止し、個人ファイルを充実することが出来た。アセスメントを細かく記入し、変更があれば随時更新できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅での24時間の暮らしに着目できるようにサービス計画書の3表にケアマネジャー以外も得た情報を手書きで書き込んでいく。(24時間シートの活用を検討) ・カンファレンス後の計画内容の実施を継続していく。
	2. 多機関・多職種との連携 (評価項目 23～25)	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護指示書の担当主治医の連携が増えた。 ・ソーシャルワーカー等、顔馴染みの関係となり、多機関との連携が増えた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の多機関・多職種との連携を拡大、充実していく。
	3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画 (評価項目 26～31)	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括ケアシステムとしてのみぎわの里の位置づけを理解し、病院との連携、地域で暮らせるよう支援することが出来た。 ・家族より相談、改善策など提供提案したが、地域への発信は取り組みなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・味噌作り、よろず相談(看護師による測定会)を計画し、実施する。
III. 結果評価 (評価項目 32～33)	<ul style="list-style-type: none"> ・目標(長期・短期)が達成されるように取り組んだ。 ・ご利用者、ご家族からの様々な相談を受け、対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画を継続していく。 ・今後も継続して、ご利用者、ご家族からの相談を受け対応していく。 	

※自己評価・運営推進会議における評価の総括を記載します

■ 評価表 [事業所自己評価]

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
I. 事業運営の評価 [適切な事業運営]							
(1) 理念等の明確化							
① 看護小規模多機能型居宅介護の特徴を踏まえた理念等の明確化とその実践							
1	サービスに求められる「①医療ニーズの高い利用者の在宅生活の継続支援」、「②在宅での看取りの支援」、「③生活機能の維持回復」、「④家族の負担軽減」、「⑤地域包括ケアへの貢献」を含む、独自の理念等を掲げている		○				<p>◆①～⑤の全てを含む理念等がある場合は「よくできている」</p> <p>◆①～⑤の一部を含む理念等が掲げられている場合は、「おおよそできている」もしくは「あまりできていない」</p> <p>◆独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>
2	サービスの特徴および事業所の理念等について、職員がその内容を理解し、実践している		○				<p>◆「サービスの特徴および理念等を踏まえた実践」の充足度を評価します</p> <p>◆独自の理念等が明確化されていない場合は「全くできていない」</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(2) 人材の育成							
① 専門技術の向上のための取組							
3	職員との話し合いなどを通じて、各職員の中長期的な育成計画などを作成している		○			・研修内容を周知しているか？ 具体的内容を紹介してほしい。	◆「育成計画の作成」の状況について、充足度を評価します ◆すべての職員について育成計画などを作成している場合は「よくできている」 ◆育成計画などを作成していない場合は「全くできていない」
		[具体的な状況・取組内容] ・人事考課、成果シートにより職員各自で目標を立てている。 ・研修実績シートを作成し、受講した研修の評価を行い次回の研修に繋げている。・研修内容一覧はファイルに綴じ、内容は把握できている。					
4	法人内外の研修を受ける機会を育成計画等に基づいて確保するなど、職員の専門技術の向上のための日常業務内での機会を確保している	○					◆「専門技術の向上のための日常業務内での機会の確保」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・老施協の研修、法人内の研修、地域で行われている講座への参加に加え、みぎわの里の勉強会内での出前講座の実施を行っている。 ・日常業務内で研修費等を法人に負担してもらい、研修を受講している。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
② 介護職・看護職間の相互理解を深めるための機会の確保							
5	介護職・看護職・介護支援専門員の間で、職員が相互に情報を共有する機会が、確保されている	○					<ul style="list-style-type: none"> ◆「情報を共有する機会」の充足度を評価します ◆例えば「利用者等の具体的なケースについて話し合うための、定期的なカンファレンスの開催」などが考えられます
[具体的な状況・取組内容]							
<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にカンファレンス、月1回の勉強会、必要時に担当者会議を行い、話し合う機会を設け情報共有している。 ・申し送りノートや個人記録を用いて情報共有し、コミュニケーションを取っている。 							
(3) 組織体制の構築							
① 運営推進会議で得られた意見等の反映							
6	運営推進会議で得られた要望、助言等をサービスの提供等に反映させている		○			<ul style="list-style-type: none"> ◆「得られた要望・助言等のサービスへの反映」の視点から、充足度を評価します 	
[具体的な状況・取組内容]							
<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の要望、助言は勉強会で報告し検討出来ている。 ・防災についての助言は年度内には対応出来た。 							
・他の要望で事例はあるか？							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
② 職員が安心して働くことができる就業環境の整備							
7	職員が、安心して働くことができる就業環境の整備に努めている		○				<p>◆「職員が、安心して働くことのできる就業環境」の充足度を評価します</p> <p>◆例えば、「職員の能力向上の支援」、「精神的な負担の軽減のための支援」、「労働時間への配慮」などが考えられます</p>
〔具体的な状況・取組内容〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・有給、希望休を消化できる勤務状況である。 ・体調不良時など迅速に勤務交代し対応出来ている。 							
(4) 情報提供・共有のための基盤整備							
①利用者等の状況に係る情報の随時更新・共有のための環境整備							
8	利用者等の情報について、随時更新を行うとともに、必要に応じて職員間で迅速に共有され、又その対応策が介護・看護職の共有の下で検討され、両職種間での連携が行われている		○				<p>◆「情報の随時の更新」と「職員間で迅速に共有するための工夫」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>◆「介護職と看護職の情報共有および対応策の検討」について、充足度を評価します</p>
〔具体的な状況・取組内容〕							
<ul style="list-style-type: none"> ・情報は随時申し送りノートに記入し、朝礼等で伝達している。 ・ご家族などの情報もケアマネを通して職員へ伝達している。 ・「報告・連絡・相談」と言った細かな点についても共有し合いながら、連携を取っている。 							

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(5) 安全管理の徹底							
① 各種の事故に対する安全管理							
9	サービス提供に係る利用者等 および職員の安全確保のため、 事業所においてその具体的な 対策が講じられている		○				◆「各種の事故に対する予 防・対策」の充足度を評価し ます 対策が求められる事項として は、例えば「医療・ケア事故 の予防・対策」、「交通安 全」、「夜間訪問時の防犯対 策」、「個人情報保護」など が考えられます
② 災害等の緊急時の体制の構築							
10	災害などの緊急時において も、サービス提供が継続でき るよう、職員、利用者、関係 機関の間で、具体的な対応方 針が共有されている	○					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
II サービス提供等の評価							
1. 利用者等の特性・変化に応じた専門的なサービス提供							
(1) 利用者等の状況把握及びアセスメントに基づく計画の作成							
① 利用者等の24時間の暮らし全体に着目した、介護・看護両面からの一体的なアセスメントの実施							
11	在宅時、利用者の生活状況や家族等介護者の状況等を含む、24時間の暮らしに着目したアセスメントを行い、その情報共有と施設内での介護・看護職の視点で実施したアセスメントの共有がされている		○			<ul style="list-style-type: none"> ・特にどの時間帯、場面の把握が難しいか？ ・宿泊されているご利用者ができているのであれば、「おおよそできている」でいいのではと意見頂く。 	<ul style="list-style-type: none"> ◆「家族等も含めた24時間の暮らし全体に着目したアセスメント」の充足度を評価します ◆「介護職と看護職間でのアセスメント結果の共有」について、充足度を評価します
② 利用者等の「尊厳の保持と自己実現の達成」を重視した計画の作成							
12	家族を含む利用者等の考えを把握するとともに、その目標の達成に向けた計画が作成されている		○			<ul style="list-style-type: none"> ◆「家族等の考えを含めた計画の作成」について、充足度を評価し利用者のみでなく、家族等の考えを適切に把握するとともに、その考えを含めた計画を作成することは重要であるといえます 	

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
13	利用者の有する能力を最大限に活かした、「心身の機能の維持回復」「生活機能の維持又は向上」を目指すことを重視した計画が作成されている		○				<p>◆「利用者の有する能力を活かした、心身機能の維持回復を重視した計画の作成」について、充足度を評価します</p> <p>◆「利用者が尊厳を持って、その有する能力に応じ地域において自立した日常生活を営む」ために、必要な視点であるといえます</p>
③ 利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画の作成							
14	利用者の今後の状況変化の予測と、リスク管理を踏まえた計画が作成されている		○			<p>・今後の見通しでリスクが考えられる場合、プランを随時変更してください。</p>	<p>◆「状況変化の予測」と「リスク管理」の2つの視点から、充足度を評価します</p> <p>◆介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護においては、特に看護職による予後予測などを踏まえて計画を作成することが重要です</p>
		[具体的な状況・取組内容]					
		<ul style="list-style-type: none"> ・日常ケアの中に身体機能維持のため、定時での体操、口腔体操等、日々の動きにメリハリをつけている。 ・残存機能を活かし、個別な視点で生活リハビリの維持ができるよう計画を作成し支援している。 ・地域に密着したプランの計画を作成するよう努めている。 					
		<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護を利用されている方については、優先的に計画を作成している。 ・その他の方については、今後の状況変化やリスクが考えられる場合は随時計画を変更するよう努めていく。 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(2) 利用者等の状況変化への迅速な対応とケアマネジメントの実践							
① 継続したアセスメントを通じた、利用者等の状況変化の早期把握と計画への反映							
15	サービス提供を通じた継続的なアセスメントにより、利用者等の状況変化を早期に把握し、計画への適宜反映と目標達成など、情報を事業所内外を含む関係多職種と共有がされている		○			・情報収集しにくいケースは具体的にどんな内容か？	◆「早期の把握」と「計画への適宜反映」の2つの視点から、充足度を評価します ◆「利用者等の状況変化や目標の達成状況等の事業所内外を含む関係多職種との情報共有」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・主治医と連携を図っているが情報収集しにくいケースもある。(訪問看護に入っていないご利用者はご家族を介しているため) ・職員間では申し送りノートを使用し情報共有を図っている。 ・状況変化があった時には担当者会議を開いている。					
② 居宅への訪問を含む、利用者等の暮らし全体に着目したアセスメントの実施と計画への反映							
16	通い・泊まりの利用に過度に偏らないよう、適時適切に利用者宅を訪問することで、家族等を含めた居宅での生活状況の変化を継続的に把握している	○				・実績はどうか？	◆「訪問による、家族等を含めた居宅での生活状況の変化の継続的な把握」という視点から、充足度を評価します ◆訪問によるケアの提供は、家族等を含めた居宅での生活状況を把握するためにも重要です
		[具体的な状況・取組内容] ・居宅での生活状況は把握は出来ており、ご家族のニーズに合わせて利用されている。 ・開設当時より偏っていた利用を修正しつつあり、以前は少なかった訪問も増えてきている。 ・稼働率は昨年度より上がっている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(3) 介護職・看護職の協働による一体的なサービスの提供							
① 介護職と看護職の相互の専門性を生かした柔軟なサービスの提供							
17	介護職と看護職のそれぞれの専門性を最大限に活かしながら、柔軟な役割分担が行われている		○			・好事例があれば、紹介してほしい。	◆「介護職と看護職の専門性を活かした役割分担」について、充足度を評価します ◆介護・看護が一体的に提供される看護小規模多機能型居宅介護では、効果的・効率的なサービス提供のために、各々の専門性を活かした役割分担や、業務の状況等に応じた柔軟な役割分担を行うことが重要です
② 看護職から介護職への情報提供および提案							
18	看護職から介護職に対して、疾病予防・病状の予後予測・心身の機能の維持回復などの観点から、情報提供や提案等を行っている		○			・好事例があれば、紹介してほしい。	◆「看護職の専門性を活かした、介護職への情報提供や提案等」について、充足度を評価します ◆このような情報提供や提案等は、看護職の専門性を活かした役割の1つとして期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(4) 利用者等との情報及び意識の共有							
① 利用者等に対するサービスの趣旨及び特徴等についての情報提供							
19	サービスの趣旨および特徴等について、分かりやすく説明し、利用者等の理解を得ている	○					◆「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・契約内容についても必要に応じて追加変更に努めている。 ・サービスを利用するにあたり、説明を行い理解している。 ・サービスに変更があればその度、説明を行い対応している。					
② 利用者等への「在宅での療養生活」に係る指導・説明							
20	在宅での療養生活に係る計画の内容や生活の継続に向けて留意すべき点、及び利用者等が行う医療処置や医療機器の取り扱い方法、家族が行うケアの提供方法について、分かりやすく説明し、理解を得ている	○					◆「利用者等の理解」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・退院カンファに参加し、医療処置、医療器具の取り扱い、ご家族が行う方法などご家族が理解されているか確認、把握し行われている。 ・訪問看護時、ご家族からの相談等を聞き指導説明し、安心した在宅療養生活を支援できるように努めている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
③ 重度化した場合や終末期における対応方針の、利用者等との相談と共有							
21	重度化した場合や終末期における在宅生活の継続の可否や検討すべき状況を予め想定し、その対応方針など、利用者本人（意思の決定・表示ができない場合は家族等）の希望や意向を把握し、サービス内容の提供に反映するとともに相談・共有ができている		○				<ul style="list-style-type: none"> ◆「サービス提供への適切な反映」について、充足度を評価します ◆「将来に発生し得る様々なリスクを想定した上での、対応策の検討と共有」について、充足度を評価します
22	終末期ケアにおいて、利用者等に適切な時期を見計らって、予後および死までの経過を丁寧に説明し、説明した内容や利用者等の意向等を記録として残している		○				<ul style="list-style-type: none"> ◆「予後および死までの経過の説明」と「記録の有無」の2つの視点から、充足度を評価します ◆「丁寧に説明し」且つ「記録として残している」場合は「よくできている」

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
2. 多機関・多職種との連携							
(1) 病院・施設等との連携による円滑で切れ目のないケアの提供							
① 病院・施設等との連携や情報共有等による、在宅生活への円滑な移行							
23	病院・施設等との連携・情報共有等により、病院・施設等からの、利用者の円滑な在宅生活への移行を支援している	○					<p>◆「利用者の円滑な在宅生活への移行」について、充足度を評価します</p> <p>◆例えば、「退院・退所前のカンファレンスへの参加」、「利用者等に係る病院・施設等との継続した情報共有」などの取組が考えられます</p>
② 入院・入所の可能性がある利用者についての、主治医等との対応方針の共有							
24	すべての利用者について、緊急時の対応方針等を、主治医等と相談・共有することができる		○				<p>◆「緊急時の対応方針等の主治医等との相談・共有」を評価します</p> <p>◆利用者の状態変化・家族等介護者の状況の変化など、実際に発生する前の段階から予め対応方針等を主治医等と相談・共有しておくことが重要です</p>

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
③ 地域の医療機関等との連携による、急変時・休日夜間等に対応可能な体制の構築							
25	地域の医療機関等との連携により、休日夜間等を含めて、すべての利用者について、急変時に即座に対応が可能な体制が構築されている		○				◆「即座な対応が可能な体制の構築」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・急変時、看護師の判断でご家族へ連絡し、救急搬送し迅速に対応している。 ・急変時等、介護・看護待機でマニュアルに沿って対応できる体制が整っている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
3. 誰でも安心して暮らせるまちづくりへの参画							
(1) 地域への積極的な情報発信及び提案							
① サービスの概要及び効果等の、地域に向けた積極的な情報の発信							
26	運営推進会議の記録について、誰でも見ることができるような方法での情報発信が、迅速に行われている	○					◆「誰でも見ることができる方法での情報発信」と「迅速な情報発信」の2つの視点から、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・会議録を作成し、玄関ホールに掲示し、誰でも閲覧出来るようにしている。(2ヶ月毎に更新)					
27	サービスの概要や地域において果たす役割等について、正しい理解を広めるため、地域住民向けに(特定の集合住宅等に限定せず)積極的にサービスの提供と啓発活動が行われている		○			・今後も継続してください。	◆「積極的な啓発活動」について、評価する項目です ◆例として、「チラシ等の配布」や「地域説明会の実施」などの取組が考えられます。 ◆利用者や職員の確保のみを目的とした活動等は除きます ◆「特定の集合住宅等に限定しない、地域への積極的な展開」について、充足度を評価します
		[具体的な状況・取組内容] ・防災訓練等の行事に参加し、近隣住人との地域交流に努めている。 ・いきいきサロン等に出向き啓発活動をしている。 ・町内の回覧板等で、みぎわの里のチラシの配布をした。 ・かけこみ110番の設置の継続はしている。 ・ホームページで情報提供をしている。					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(2) 医療ニーズの高い利用者の在宅での療養生活を支える、地域拠点としての機能の発揮							
① 看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を含む、地域への訪問看護の積極的な提供							
28	看護小規模多機能型居宅介護事業所の登録者以外を対象とした訪問看護を積極的に実施している						<p>◆「指定訪問看護事業所の指定を併せて受けている事業所」のみが対象です。該当しない場合は、実施状況欄は無記入で、[具体的な状況・取組内容]欄に「指定なし」と記入してください</p> <p>◆「登録者以外を対象とした訪問看護」を実施していない場合は、「全くできていない」</p>
② 医療ニーズの高い要介護者の積極的な受け入れ							
29	「たん吸引」「人工呼吸器」「看取り支援」を必要とすることができる体制が整っており、積極的に受け入れている		○				<p>◆「積極的な受け入れ」について、充足度を評価してください</p> <p>◆「受け入れることができる体制」が整っていない場合は、「全くできていない」</p> <p>◆「あまりできていない」～「よくできている」は、その「積極性」の視点から、充足度を評価します</p>
		<p>[具体的な状況・取組内容]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看取り支援については現在対象者はいないが、積極的な受け入れ体制は整っている。(相談時、看取り支援まで可能な体制を説明) ・常時、たん吸引の体制は整っている。(補足：特定事業従事者とは厚労省が定めた研修14時間講習修了者、2号研修者とは厚労省が定めた研修50時間講習後の県知事認定資格、事業所も登録事業者指定されている。) ・人工呼吸器の一種、CPAP(持続陽圧呼吸療法)利用者1名受け入れている 					

番号	評価項目	事業所自己評価				運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
		よく できている	おおよそ できている	あまりでき ていない	全くできて いない		
(3) 地域包括ケアシステムの構築に向けての、まちづくりへの参画							
① 行政の地域包括ケアシステム構築に係る方針や計画の理解							
30	管理者および職員が、行政が介護保険事業計画等で掲げている、地域包括ケアシステムの構築方針や計画の内容等について理解している		○				<ul style="list-style-type: none"> ◆「内容等の理解」について、その充足度を評価します ◆地域包括ケアシステムの構築にあたっては、その中で各々が果たすべき役割を、明確に理解することが必要であるといえます ◆地域包括ケアシステムの構築方針や計画などが無い場合は、「全くできていない」
② 安心して暮らせるまちづくりに向けた、関係者等への積極的な課題提起、改善策の検討等							
31	介護・看護の観点から、民生委員・地域包括支援センター・市区町村職員等を含め家族等や近隣住民に対し、必要に応じて課題提起や改善策の提案など、又その介護力を引き出す具体的取り組みが行われている			○			<ul style="list-style-type: none"> ◆「課題提起や改善策の提案等の取組」や「家族等や近隣住民に対する、介護力の引き出しや向上のための取組」について、その充足度を評価します ◆今後は、サービスの提供等を通じて得た情報や知見、多様な関係者とのネットワーク等を活用し、必要となる保険外サービスやインフォーマルサービスの開発・活用等、利用者等のみでなく地域における課題や改善策を関係者に対して提案していくなどの役割も期待されます

番号	評価項目	事業所自己評価	運営推進会議における評価 コメント記入欄	評価の視点・ 評価にあたっての補足
Ⅲ 結果評価				
① 計画目標の達成				
32	サービスの導入により、利用者ごとの計画目標が達成されている	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. る</p> <p>4. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・計画目標に沿って継続することで達成出来ている。</p>		◆「計画目標の達成」について、評価します
② 在宅での療養生活の継続に対する安心感				
33	サービスの導入により、利用者およびその家族等において、医療が必要な状況下での在宅療養生活の継続や看取りを希望した時の在宅での看取りに対する安心感が得られている	<p>① ほぼ全ての利用者について、達成されている</p> <p>2. 利用者の2/3くらいについて、達成されている</p> <p>3. る</p> <p>4. 利用者の1/3くらいについて、達成されている</p> <p>[具体的な状況・取組内容]</p> <p>・ご利用者・ご家族（医療が必要な方を含む）からの相談は、看護師が常駐していることで安心感が得られている。</p>		◆在宅での看取りを除く、全ての利用者およびその家族等に対し、サービスの提供により実現された「医療が必要な状況下においての、在宅での療養生活の継続に対する安心感」について、評価します